

選考経過（膜構造デザイン賞）

膜構造デザイン賞の審査は書類選考（1次審査）、現地審査(2次審査)の2段階で実施している。本年は応募3件のうち、書類選考を通過した3件について現地での応募者によるプレゼンテーション、視察、質疑応答による2次審査を実施した。最終選考会議では、資料を縦覧した後、全委員での議論と複数回の投票を行った。なお利害関係のある委員は投票を棄権し、棄権者のある回の投票は他の投票者の点数を按分することで不公平の出ないように配慮した。以上の経緯を経て、第3回の膜構造デザイン賞を授与する対象として下記の2件を選出した。

「膜屋根のいえ」

「EDION PEACE WING HIROSHIMA」

現地審査まで行って最終選に至らなかった1件については、近年、駅舎の屋根に膜材料が用いられる例が多い中での応募であったが、意匠及び構造のデザイン性に関しての評価が伸びず選外となった。

表彰委員長 川口健一